■初動に関する簡易マニュアル　～避難所開設の手順～

【基本的な考え方】避難所の運営は、地域住民の皆さんが自主的に行います。

津久戸小学校避難所運営管理協議会
平成26年8月1日

①施設管理協力員が、学校正門を開錠する。　※学校が閉鎖している時間帯のみ
（★施設管理協力員の氏名・連絡先を記載。）

↓

②主事室を開けてまとめられているカギ束を取り出す。

↓

③備蓄倉庫のカギを開けて必要な物品を取り出す。
ア 事務用品（プラケース） イ 標示物（「立入禁止」等） ウ 帰宅困難者誘導看板及び案内地図
（入口付近にまとめてある。また、夜間用のランタンは入口左足元にある。）

↓

④正門から体育館までの導線確保
（立入禁止の黄色のテープを使用）
避難者は正門から誘導し、校庭に待機を促す
（救護車等は通用門から）

★原則、教室等に避難者は入れない。
避難者は校庭→体育館の順路で誘導する。

④帰宅困難者を牛込箪笥地域センター・区民ホール（新宿区帰宅困難者一時滞在施設）に誘導する看板（防災倉庫に保管）を玄関前に設置する。
併せて案内地図も配布する。

※帰宅困難者の方は、牛込箪笥地域センターに案内する。

↓

⑤体育館を開錠し、被災状況を確認／避難所として使用できるかどうか判断（下記が判断基準）
★体育館内・周辺火災の有無確認　★体育館内に落下物の恐れがないか

↓

⑥避難所を開設する。
職員室を開錠し、地域本部（出張所）に避難所開設の報告をする。
防災無線（番号：202）・　電話（3260-1911）
※体育館の破損がひどい場合、避難所としては使用不可。その場合も報告は必要。

↓

⑦避難者の中から有志を募り、一緒に体育館内の運動具・マット等を片付け、スペースを確保する。
ブルーシートを敷く（センター部分十字に通路を確保すること）。
体育館入口（外）に机・イスを置き、受付を設ける。 ※机・イスはピアノのそばにある。

↓

⑧校庭から体育館へ黄色テープで導線をつくり、避難者を誘導する。
受付で「名簿」（事務用品のケースにある）を書いてもらう。靴は脱いで入ってもらう。
※帰宅困難者の方は、牛込箪笥地域センターに案内する。

↓

⑨避難所管理運営組織を立ち上げる。
各町会・自治会が持ち場に分かれて、作業を開始する。

↓

【庶務・情報連絡部】
★避難所内管理全般
★地域本部との連絡調整　など

【物資供給部】
★物資・食糧の配給
★物資・食糧の受け入れ
★物資・食糧の管理　など

【救護衛生部】
★避難所内の衛生管理
★避難者の健康管理
★けが人・高齢者の保護　など

津久戸小学校避難所運営管理協議会
～避難所開設の手順～　学校利用計画図

平成26年8月1日

※ここに記した人数は、延べ人数であり、あくまでも目安。
※避難された方の中から、健康で体力のありそうな方に声掛けして、協力してもらうこと。

避難所防災訓練レポート

協議会名	津久戸小学校避難所運営管理協議会		
訓練日	平成26年6月28日（土）	14時00分～16時00分	
運営する町会・自治会等	神楽坂一丁目町会、神楽坂二丁目町会、神楽坂三丁目自治会、神楽坂四丁目公和会、神楽坂五丁目自治会、神楽坂五丁目三和会、神楽坂六丁目町会、飯田橋自治会、筑戸自治会、白銀町町会、新小川町自治会、赤城元町町会、市谷船河原町町会、アトラス江戸川アパート自治会		
参加者数	町会・自治会等一般参加者 30人	民間事業者 0人	児童・生徒 0人
	PTA 10人	学校教職員 17人	防災関係機関等 1人
	その他 2人	区職員 10人	合　計 70人
訓練概要	津久戸小正門前に委員14時集合、正門及び昇降口を開錠後、訓練内容を確認。 1　避難所の開設準備（事務用品、掲示物、帰宅困難者用誘導看板・案内地図） 2　地域本部との通信（職員室） 3　安全確認、避難者の動線確保、間仕切りの組立て体験 4　防災資機材の保管場所の確認、操作体験（発電機、投光器） 5　意見交換等		
特色・良かった点・成果等	・現実に即した訓練で、手ごたえがあった。 ・初動について２回目の訓練となり、理解を深めることができた。 ・訓練結果を基に、初動についての簡易マニュアルを完成させた。また、各手順での必要人数を検討し、「学校利用計画図」に記入した。		
課題・改善点等	・避難所開設後の各部の作業についても理解を深めるべき。 ・看板「帰宅困難者の方には一時滞在施設をご案内しています」の表示では、誤解が生じやすい。多言語対応も含めて改善が必要ではないか。 ・常時設置看板「ここは避難所です」は、より大きく、分かりやすい表記にした方がよい。 ・委員ではない一般の参加者に、避難所の開設は公がやるものだ、詳しい手順まで知る必要はない、という意識があると感じた。地域住民の役割をもっと強調すべき。 ・委員の手が足りないと予想されるので、避難者の中で体力のある方に声掛けをすることが重要だ。 ・帰宅困難者と避難者（地域住民）とを振り分ける作業が、難しく、手間がかかると思われるため、ケーススタディの作成が必要。		
その他 ※今後取り組みたいこと・意見等	訓練後、避難所運営管理協議会の下部組織として、小委員会を設立し、避難所運営マニュアルの見直し等に取り組んでいる。		

施設管理協力員が正門を開けました

備蓄倉庫から、事務用品（プラケース）、掲示物、誘導看板・地図を取り出しました

事務用品（プラケース）の内容を確認しました

誘導看板と地図を確認しました

職員室にある防災無線の使い方を体験・確認しました

ブルーシートを敷きました

間仕切りを組み立ててみました

たたみ１畳分のスペースを体験しました

発電機、投光器の使い方を訓練しました